

活動停止命令を受けた後のロシナンテスの活動を支援する地元紙



スーダン政府 人道支援局からの 活動停止命令を受けて

反政府活動？

今回の措置では、我々を含む7つの国際的なNGOが停止命令を受けていました。2009年に、国際司法裁判所から、スー

ダニ大統領にダルフール紛争の責任により逮捕状が発布され、それを受けてスー

ダニの国際NGOを国外追放しました。極めて政治的なもので

す。今回の措置も、調べていくと、そのような気配があります。

表向きの理由は、いろいろと述

べてきますが、裏には反政府活動につながっているとの疑念があります。もちろん、我々が反政府活動を扇動しているわけではなく、国際社会の政治の渦に巻き込まれてのことです。腹を据えて、事にあたらなければなりません。欧米系の団体は、

スー

ダニからの長旅を終えて、家に辿り着くなり、家内から「スー

ダニに大至急連絡して」とのこと。人道支援局(HAC)からの通達で、6月末日で、ロシナンテスのガダーレフでの活動を停止する命令が下されました。翌日、スー

ダニに再び飛び立ちはじました。



【第8号】

NPO法人ロシナンテス
本部事務局発行

 ROCINANTES
www.rocinantes.org

帰国直後の連絡

スー

ダニから要請してきましたが、我々はやんわりと断り、日本独自の路線で交渉を行うことに決めました。外務省、JICA(国際協力機構)と一致団結しての交渉です。我々の活動は、JICAとのパートナー事業で、出産時の母体と子供の命を守り、子供を元気に成長させる母子保健事業を行い、また医療活動を通じて得た地域の人たちとの信頼関係を基盤として、給水施設、女子学校を建設など総合的な事業を行つてきました。今回の措置で、ガダーレフ州そして村の人たちからは、猛烈な反対の声が上がりました。大挙して首都のハルツームに抗議する動きもありましたが、「それ見えたことか、ロシナンテスは反政府活動を扇動している」と見られる危険性がありましたから、この動きを抑えました。在スー

ダニの日本大使とも、よく相談し、スー

ダニ政府の決定は、國のメンツもあつて覆すわけにはいかないであります。う、とのことで、我々の活動は停止することに決まりました。

活動継続への トリック

実は、それは表向きで、スー

ダニ政府にも水面下で交渉を行い、JICAの名前の人、事業を継続するようにしました。この措置に伴い、我々の日本人スタッフは一時帰国をし、その後にJICAスタッフとしてスー

ダニに再入国して活動を継続させています。

このよう経緯があつた中、JICA本部と九州から検証チームが、一体どうなつているのやら?とスー

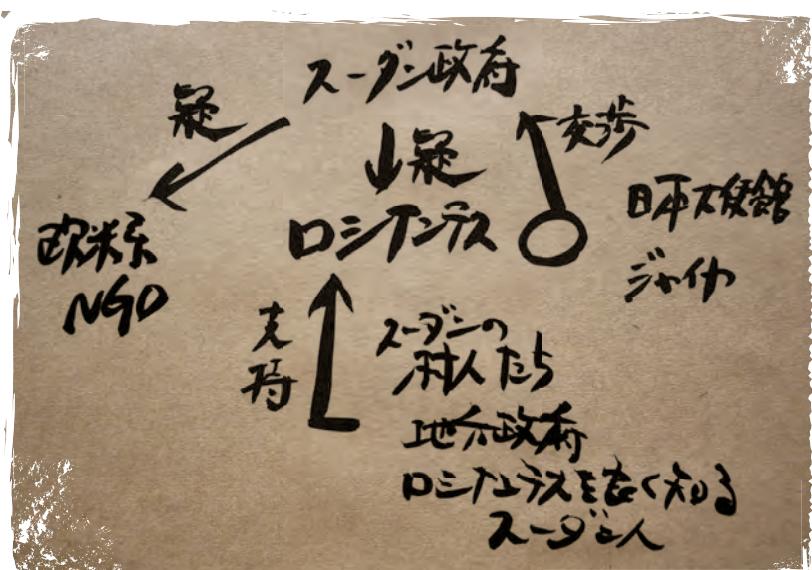
ダニに来たのです。連邦保健省(中央政府)、ガダーレフ保健省そして村落レベルでの実地調査が行われました。今までに村人たちと共に歩んできたものが高く評価されました。それをガダーレフ州そしてスー

ダニ全土に広めようとも言われました。暗闇の

何かに守られて

5月の終わりにスー

ダニから帰国して、この一報を受けた際、一睡も出来ずにいました。考えもまとまらない中、夜中に家の近くのお宮さんにお参りに行きました。草木も眠る丑三時でしようか、お宮さんの隣にある石碑の上に、そこには、魔物ではなく、私をじつと見つめる梟がいました。幻想的なものを感じるとともに、何か大きなものに守られていると感じました。感謝の気持ちでいっぱいです。



スードンだより

一年で一番過ごしやすい 年末のスーダンから



医療活動、学校・教育事業、水・衛生事業、交流事業、スポーツ事業への取り組みをご報告します。



母親学級でヘルスピジターのアファフが食材の写真を用いて母親達に質問を投げかけながら栄養について教えていた様子。

見られて 褒められて
力をつけていく母子保健スタッフ達

8月はJICAによる母子保健事業評価で、母親教室や診療所の様子が観察され、村落助産師達の能力や診療所がきれいに保たれていたことなど良い評価を受けました。

そく始めました。毎週1か所ずつ、計11村で開催します。栄養士のホイダを中心とに、ヘルスビジターのアファフが助産師の視点から補足を加え、村落助産師達もコメントを付け加えながら、とてもよい雰囲気で、毎回よりよい啓発活動になつ

である血圧測定を、全員が出来るようになるという目標を掲げ、診療所に来る度にお互いに血圧測定をするという自己練習に励んでいます。

11月の「招聘事業」では、プロジェクトに関わる女性医師が日本の母子保健のシステムを視察する一方で、スレダンの母子保健の現状を発表する機会を設けました。日本で自分達の活動が報告されるということは、現場のスタッフ、村落助産師達にとつての誇りややる気にもつながっています。

栄養士のホイダとヘルスピジター(スーパーバイザー的助産師)のアファフです。私はこのペアが何とも言えず好きです。ホイダは私と同じ年齢。一方のアファフはホイダの母親と同じ年齢。ホイダは栄養士ですが、手が空くといつもアファフの記録を手伝い、もはや仕事では欠かせない右腕、仕事以外でも仲良し母娘といった感じです。アファフは7人の村落助産師達を指導する立場でもあり、先日、妊婦健診で機材も限られた中、一見わかりにくい異常を発見



栄養教室で
母親達に話をして
いるところ。

した時には、さすがベテラン助産師という腕前を見せてくださいました。現在進行中の栄養教室では、栄養士と助産師の息の合った二人による、見事にして効果的な啓発活動が繰り広げられています。

栄養士 ホイダ(右)

ヘルスピジター アファフ(左)

スタッフ紹介

はじめまして。



母子保健専門家
櫻井 文

皆様こんにちは。8月から母子保健専門家として着任した櫻井文です。茨城県石岡市出身です。地元の日赤病院で看護師として勤務後、フィリピンのNGO、マダガスカルで青年海外協力隊を経験しました。その中で、地域における保健啓発活動のやりがいや楽しさを知り、今後も地域での活動をしていきたいと考えていたところ、ロシナンテスの募集と出会いました。ロシナンテスの活動内容を知れば知るほど、何か運命的なものを感じ、これは何としても行かなければ！と思いました。着任後は、理解とスキルのあるスタッフ達に囲まれ、毎日楽しく充実した活動が出来、やはりここに来てよかったですと感じています。今後も大好きな彼らと楽しく活動していきます！



迷走するスーダンサッカーの間で

2011年2月から始まつたスーダンサッカーアカデミーの人工芝グラウンド改修工事が、1年以上を経て、この10月にやっと完成しました。改修工事は、FIFA（国際サッカー連盟）の援助で行われたので、グラウ

ドを使用するには、FIFAから最終的な工事終了の許可を得る必要があります。しかし、FIFAからは工事のやり直しの回答が届いてしまいました。また、悪いニュースは続くもので、スードンサッカー協会は、傘下にあるアカデミーを一時的に閉鎖する事を決めました。財政が悪化し、アカデミーの運営・維持が出来なくなつた為です。

キッズスクールは、アカデミー以外の所で練習をしなくてはいけない状況が続いています。スードンは、本当にサッカーが人気なので、練

C,Dチーム(12歳以下)も試合を通してたくましく成長しています。



Aチーム。練習や試合を通して、サッカー以外でも成長を見せてくれています。

PLAYER INTRODUCE

キッズスクール 選手紹介

**Aチーム所属
アーデル・シェリーフ**

第1回はアーデル・シェリーフ君です。Aチーム所属(A~Dチームまであります)。ポジションはフォワードです。現在、15歳ですが、19歳以下スードン代表の最終選考まで残りました。武器は、スピードとドリブルです。今一番乗っている選手です。ちなみに、彼の家族は音楽一家で、父親は有名な歌手、祖父はスードンのKING of JAZZと呼ばれるほどの人です。

習会場を確保するのも大変な作業です。練習、そして試合も、今まで通り取り入れ、勝負の世界で助け合い、時には笑い、時には悔しがりと、サッカーを通して、子供達は成長し続けています。

アハメド医師は、心臓外科医でシャーブ病院の院長です。彼とは、私が在スードン医務官時代からの親友です。彼が院長を務める病院で、日本からの医療関係者や学生の研修を行っています。来日して九州大学、小倉記念病院を視察し、JICA本部などで今後の協力関係を協議しました。

アミーラ医師は、ガダーレフ州の母子保健担当の部長です。サルワ医師は、ゲジラ大学の教員で、地域医療担当です。岡山で開催された国際保健医療学会で、ロシナンテススタッフである伊東清恵の発表の共同演者であることにより来日し、北九州市子ども家庭局、消防局、戸畠中央小学校、福岡、東京でスードンの母子保健に関する討論会を行いました。



C,Dチーム(12歳以下)も試合を通してたくましく成長しています。



アハメド医師は、心臓外科医でシャーブ病院の院長です。彼とは、私が在スードン医務官時代からの親友です。彼が院長を務める病院で、日本からの医療関係者や学生の研修を行っています。来日して九州大学、小倉記念病院を視察し、JICA本部などで今後の協力関係を協議しました。

アミーラ医師は、ガダーレフ州の母子保健担当の部長です。サルワ医師は、ゲジラ大学の教員で、地域医療担当です。岡山で開催された国際保健医療学会で、ロシナンテススタッフである伊東清恵の発表の共同演者であることにより来日し、北九州市子ども家庭局、消防局、戸畠中央小学校、福岡、東京でスードンの母子保健に関する討論会を行いました。

交流 × 事業

スードンから日本へ

日本からスードンへ



内田医師は、群馬大医学部の時に、私が講義に行つたのが御縁で、その後、心臓外科医となり、シャーブ病院で診療を行いました。ロシナンテスの成長と共に、医学生から医師となり、スードンに来て、感慨深いものです。

明治学院大学国際学部の平山恵先生に引率されて6名の学生が病院管理に関して、貴重な提言をしてくれたほか、自治医科大学、福井大学医学部、慶應大学環境情報学部、熊本大学薬学科から学生さんが、スードンでの研修を行いました。慶應の川村賢成君はJICAスードン事務所で見事な発表を行いました。また、臨床工学技士2名が名古屋から来られました。

亘理いちご畑

いちごに懸ける夢、日本へ

私たちが支援をしている仙南地区に、亘理町があります。亘理町の一番の特産品は「いちご」です。いちご生産のためのビニールハウスが、町内のいたるところにありました。震災により多くのハウスが流されてしまいました。これから始まるいちご

生産の再建を被災者の健康のために活かせないかと考えられたのが、「亘理いちご畑」の事業です。

植物を育てることは人の心と体にとても良いことだそうですが、農業を営む方に高齢者が多いことはご存知でしょう。亘理町のお年寄りの方々の多くは、家庭菜園をつくり、あるいは本業として農業を営まれています。しかし、仮設住宅で生活する今、その営みは失われました。



「亘理いちご畑」開設記念イベント

特産品のいちごや野菜等を育てながら、仲間とのコミュニケーションを増やし、明るく健やかに生活することで、健康維持や健康活動などを実現しています。農業を営む方に高齢者が多いことはご存知でしょう。亘理町のお年寄りの方々の多くは、家庭菜園をつくり、あるいは本業として農業を営まれています。しかし、仮設住宅で生活する今、その営みは失われました。

これまで広報活動などをしたところ、私たち自身が農業を体験してきました。それを踏まえて、いよいよ今冬から本格的に始動します。

この事業は、被災地だけにとどまらず、疲弊しつつある日本全体に波及できるものもあると思います。お天道様の下、土に触れ緑を感じ、本来の人間性をとり戻す機会になればと思っています。今後の動向にぜひご注目ください。

昨年（平成24年）秋頃から、各地で被災者らが語り部を務め、訪れた人に、被災状況を説明し、被災地域を案内する「復興語り部」が散見されるようになりました。これにヒントを得て「東北を歩こう！」は企画されました。

「復興語り部」の多くは、語り部一人が観光バス1台分の参加者に対峙します。それに応じて、私たちは個人対個人に近づくように、語り部1人に対し参加者3名程度で被災地を巡るようになります。さらに宿泊は地域の集会所を利用し、避難所体験をしていただきました。その効果は大きく、個人の体験に耳を傾けることにより心の深いところに震災の記憶が刻まれたようです。避難所体験や、短時間ですが支援活動をすることにより、自分がなすべきことを考えられるようになつたと多くの参加者の感想をいただきました。

被災した田んぼで初めての稲刈り



東日本大震災を風化させないためにできること

みなさんは、東日本大震災の被災地をどの程度の頻度で思い出しているでしょうか。毎日？週に1回？月に1回？

人間は自己に起こった辛い体験さえも忘れるようにできているといいます。つまり、被災地以外での震災の記憶の風化は、当然のことといえます。しかし、被災された方が一番恐れていることは「忘れられること」です。この相反することを何とか一つにできないと被災住民とともに知恵をしぼつて考えたのが「東北を歩こう！閑上～震災を忘れない」です。



↑震災前の写真と見比べながら歩く…

←閑上小学校にて、語り部・参加者・スタッフ全員で記念撮影

東北を歩こう [7月21日・22日]

スー・ダ・ンからの留学生

ゼインくん だより

日本の皆様、はじめまして。スー・ダ・ンから来ましたゼイン(本名:ゼネラブディーン アブデルラハマン)です。今年の4月から日本の高校に入学し、毎日楽しい学校生活を送っています。こうして日本に来ることができたのも、皆様のお陰です。このようなチャンスを与えてくれたすべての方に、心より感謝しています。



今後、スー・ダ・ンから日本に留学する仲間がもっと増えるといいなと思います。みんなのお手本になれるように、勉強とサッカーを一生懸命頑張ります。

ゼイン
العايدن

ゼネラブディーン

アラビア語講座

このコーナーでは、アラビア語も紹介していきます。ぜひ覚えてくださいね。まず第1回目は「ありがとうございます」です。

شکر

シュクラン;shukran

シュクランのあとに『多いに、たくさん』を意味するジャズィーランを付けるとより丁寧な感謝の意を伝えられます。

شکر جزیل

シュクラン ジャズィーラン;shukran jazilan

日本の方々、はじめまして。スー・ダ・ンから来ましたゼイン(本名:ゼネラブディーン アブデルラハマン)です。今年の4月から日本の高校に入学し、毎日楽しい学校生活を送っています。こうして日本に来ることができたのも、皆様のお陰です。このようなチャンスを与えてくれたすべての方に、心より感謝しています。

スー・ダ・ンに帰国してからも、子どもたちは交流会などを開催し、

食事を共にしたり、日本語の歌を

練習しています。2011年7月

9日に南スー・ダ・ンが独立しまし

たので、皆が集まるのは難しいの

ですが、いつも日本での思い出を

楽しそうに話しています。

天の川プロジェクトで日本に

えした「天の川プロジェクト」のことを覚えていらっしゃいますでしょうか? 先に開催された「天の川プロジェクト」では、南北スー・ダ・ンの子どもたちをロシナンテスが復興支援活動を行う宮城県名取市に招いて、交流をしました。スー・ダ・ンから22名の子どもたちが日本にやつてきて、京都、宮城、東京、長崎を8日間の日程で訪問しました。

スー・ダ・ンに帰国してからも、子

どもたちは交流会などを開催し、

食事を共にしたり、日本語の歌を

練習しています。2011年7月

9日に南スー・ダ・ンが独立しまし

たので、皆が集まるのは難しいの

ですが、いつも日本での思い出を

楽しそうに話しています。

スー・ダ・ンに帰国してからも、子

どもたちは交流会などを開催し、

食事を共にしたり、日本語の歌を

練習しています。2011年7月

9日に南スー・ダ・ンが独立しまし

国内の活動



わっしょい百万夏祭り

8月4日(土)・5日(日)北九州市

8月4日(土)5日(日)北九州市で毎年開催される『わっしょい百万夏祭り』に出演しました。わっしょい百万夏まつり振興会事務局のご協力により、毎年出展させて頂いております。2日間とも大変暑く体力勝負でしたが、皆のチームワークで乗り切りました。

お祭りで販売しているケバブサンドは大変好評で夕方には完売してしまう人気メニューです。

また、隣の活動紹介ブースではスーダンのクイズ(3問)に挑戦して頂きました。子供から大人までたくさんの方に参加頂き、スーダンという国がちょっと身近に感じら



毎年人気のケバブサンド(上)とスーダンクイズの様子(左)

れたと思います。

当日は、スーダンからの留学生・ゼインにも参加してもらい、スーダンの文化や習慣などを一生懸命説明していました。

来夏も北九州の皆様と共に祭りを盛り上げたいと思います。



ラグビーの魅力とロシナンテスの活動を知ってほしい

9月22日(土)秩父宮ラグビー場横の青山高校

ラグビーシーズン到来の9月22日、聖地・秩父宮ラグビー場横の青山高校にて、「笑顔のために～ロシナンテスとラグビー仲間～」と題してイベントを開催しました。この企画はラグビージャーナリストの村上晃一さんと秋常靖子さんご協力で実現されました。前半は川原ミニ講演会、後半はトップリーグのサントリーリー、キャノン、パナソニック、東芝の各選手が駆けつけ、村上氏・川原を交えて、ラグビーの魅力について語って頂きました。終了後は、イベント参加者有志と秩父宮にてトップリーグの試合を観戦しました。欠場選手の解説付きの観戦に、初めての方も楽しんで頂きました。

事務局長 海原六郎



ラグビー世界大会へ「チームロシナンテス」が参加

10月福岡市内

去る10月、35歳以上のラグビー世界大会である「ゴールデンオールディーズワールドラグビーフェスティバル」が日本で初めて開催されました。地元福岡での開催ということもあり、「チームロシナンテス」を結成して参加致しました。初戦はイングランドの老年チームとの試合でしたが、本場イングランドの年長プレーヤーから「楽しむラグビー」を教わりました。またオーストラリアから参加のチームとの対戦では、キャプテン川原が流血するほどの激



しいぶつかり合いもありました。アフターマッチファンクションでは、世界のラガーメンにロシナンテスの活動に関する広報も行いました。

事務局長 海原六郎



はじめまして。

スタッフ紹介

10月15日より日本事務局で働く事になりました、須藤恵子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。理事長の川原がタンザニアに勤務していた際に、家が隣同士だったご縁もあります。また22年前になりますが、スーダンにも住んでいました。その時代と今では、だいぶ変化していると聞いています。

春の東京講演会で再会して、「今やらなければ！」と自分に出来る事を、ロシナンテスに関わる方たちと共にしていくたいと思い、志願しました。多くのご支援の方たちの気持ちを、スーダンや東北の被災地の方へ届けられるよう取り組んでまいります。



須藤恵子

アフリカ・スーダン 子どもたちの未来を考える ～母子保健の普及に努める女性たち～

11月8日(木)福岡市アクロス福岡

11月8日、アクロス福岡にて、スーダン人女性医師、Dr. アミーラ、Dr. サルワの来日に伴い、講演会を開催しました。演目は、「アフリカ・スーダン 子どもたちの未来を考える～母子保健の普及に努める女性たち～」。これからスーダンを担う子どもたちが、元気に育つために必要な母子保健を中心テーマとし、理事長の川原、元ロシナンテス看護師の伊東(旧姓:成田)の基調講演、そしてパネルディスカッションという構成でおこないました。開催趣旨は、アフリカ・スーダンという日本にとって馴染みの薄い国、また母子保健という専門性の高い分野を、広く一般の方々にも知っていただき、共に考える機会とすることでした。

結果、定員を越える210名程の方に来場い

ただきました。遅い時間にも関わらず、学生の姿も見受けられ、なかには小学生もあり、講演会終了後、熱心に川原に質問をしていました。共催のNPO法人災害人道医療支援会HuMA(ヒューマ)の矢野先生には、日頃より当団体母子保健事業に貴重なご意見を賜っていますが、本パネルディスカッションでも、わかりやすい説明をいただきました。

今回は、九州を拠点に活躍されているキャスターの山本華世氏に総合司会を務めていただき、とても親しみやすい雰囲気のもと、会場との意見交換も活発に行われました。

「知ることから未来は変わる」。来場者の方々にとって、これまで自分の知らなかった世界を知り、自分の枠から一步踏み出す場となれたことを願うばかりです。

スー・ダンでは、お母さんと赤ちゃん、そして子供たちの命を守る母子保健事業をガダーレフ以外の別の地で活動する予定です。各地を連携させて、スー・ダンとして日本の各種機関と協調しながら、深化させてまいります。また私の大学同級生の古惠良医師、お父様が高校の先輩である矢野医師、スー・ダンへの二度の渡航そしてスー・ダン人の受け入れを行つてゐる嶋井助産師などから構成されるロシナンテス母子保健委員会を設立し、母

サッカーを通じてのスーザンの子供達へのアプローチも変わらずに行い、平成25年度は、地方へも巡回指導を積極的に行うようになります。さらに、昨年、南スーダンとスーザンの子供達

の国際学会に、長崎の原爆展をすることにつながりました。スーダンの内戦からの復興には、長崎の復興から学ぶべきところがあると思います。長崎原爆病院の朝永院長を招聘する予定です。

平成二十五年〔2013年〕のロシナンテス

A black and white photograph of five people standing together outdoors. On the far left is a man wearing a baseball cap and a dark jacket. Next to him is a woman in a light-colored, horizontally striped sweater. The third person from the left is a woman wearing a hijab and a dark, patterned dress. The fourth person is a man in a dark suit, white shirt, and striped tie. On the far right is another man in a light-colored suit, a white shirt, and a bow tie. They are positioned in front of a large pine tree with visible pine cones hanging from its branches. The background shows a hilly landscape.

▼事務局長より

▼2013年カレンダー発売中

ロシナンテスで毎年作成しているカレンダーが好評発売中です。お申し込みは本部事務局、またはホームページよりお願ひいたします。

▼皆様からの応援メッセージ・
感想をお待ちしております。

今号の「遠回り」はいかがでした
でしょうか？皆様にロシナンテス
の活動を分かりやすくお伝えでき
るよう、ご意見・ご感想などをお寄
せください。また、応援メッセージ
なども頂けますと今後の活動の励
みとなります。

紙面構成がガラリと変わりました。実は、常に改革姿勢をもち続ける理事長の川原から、鶴の一聲が発せられ、特別な編集会議が開かれ、さらに紙面構成に新しいデザイナーを起用した結果なのです。

写真の多用で見やすくなつたことはもちろんですが、連載コラムの採用で、明確な連続性も表現できたと思います。無論、これで完成形ではありますまいので、よりよい紙面構成できるアイデアやご意見があれば、虚心に頂戴し続けます。



NPO法人ロシナンテス
本部事務局
〒802-0066
北九州市小倉北区萩崎町9-35
TEL:093-922-6470
URL:<http://www.rocinantes.org>
E-Mail:info@rocinantes.org
編集担当:永松利一

事務局だより

編集後記